図3 ねらいの達成度の変化(上作延保)

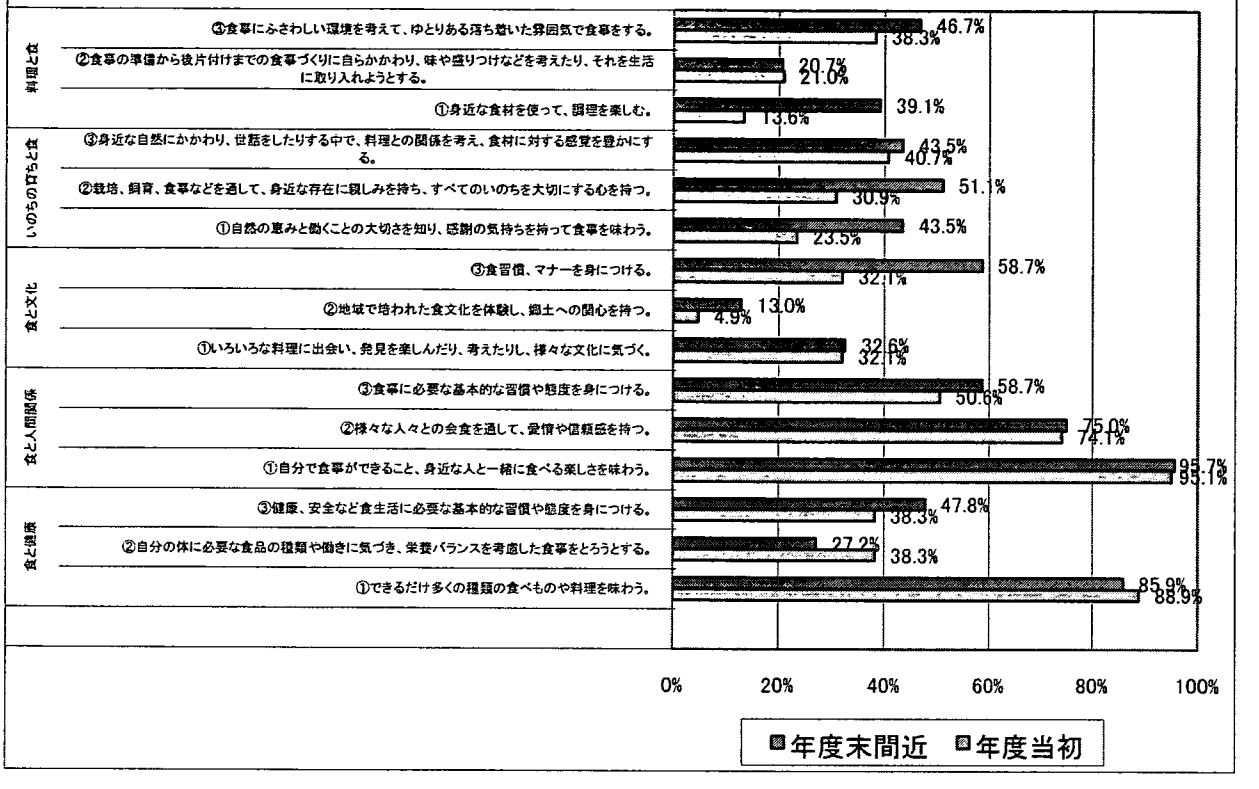
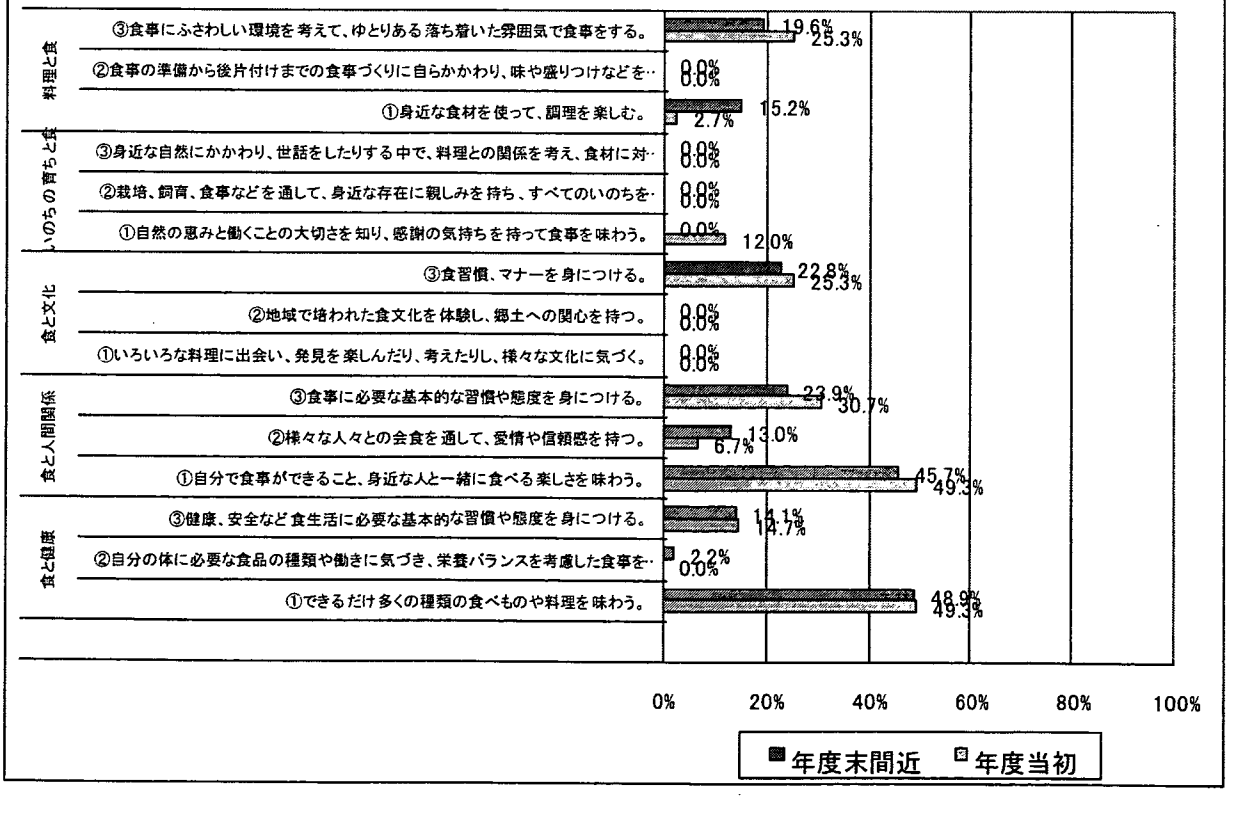


図4 ねらいの達成度の変化(戸手保)



D．結論

以上、子どもの成長・発達を把握する方法として平成18年度末から平成19年度にかけて４つのモデル園に導入した児童票を手がかりに、子どもの成長・発達の度合いを把握し、食育目標の達成度を考察した。

その結果、平成19年度末間近の時点で、６か月から１歳３か月未満児では、「ねらい①」「ねらい②」「ねらい④」に関して、概ね達成が図られていたことがわかった。ただ、「ねらい③」は半数程度にとどまった。１歳３か月から２歳未満児では、４つのねらい全てに関して、概ね達成が図られていることがわかった。２歳児は、全体に達成率はあまり高くなく、達成率が 50%を超えたのは「ねらい①」「ねらい②」「ねらい⑥」にとどまることがわかった。そして、３歳以上児は、15のねらいの達成率にバラつきが見られ、達成率が 50%を超えたのは「食と健康①」と「食と人間関係①」の２点であることがわかった。一方、「食と健康②」「食と文化①」「食と文化②」「いのちの育ちと食①」「いのち育ちと食②」「いのちの育ち食③」「料理と食②」「料理と食③」の８つのねらいについては、30%に満たない達成率であった。

ただ、３歳以上児を対象に、モデル園としての取り組みの最終年度である平成19 年度内における子どものねらいの達成度の変化を見ると、モデル園全体を平均すると、15のねらい全てにわたり、達成率が向上していることもわかった。調理保育などに代表されるように、モデル園として他園に先駆けて、先進的な食育プログラムを作成し、実践を積み重ねてきた成果が現れた結果といえよう。一方、「料理と食②」や「いのち育ちと食②」など、平成19年度内の伸び率が10%に満たないねらいも７つ見られた。

以上の結果から、モデル園では、概ね食育のねらいは達成できたといえる。ただ、達成率に差があるところを見ると、いずれの年齢でも、前段階の発達過程区分から引き続きの課題は高い達成率を示すが、新たな課題性を含むねらいについては、低い達成率にとどまる傾向も見られる。児童票に示されたねらいは、『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針』において設定され、各園の食育実践として期待されているものである。理想的に言えば、各発達過程区分の修了時点で、全てのねらいに著しい向上が認められることが望まれる。今後、食育プログラムを作成する上で、高い比率でねらいが達成できたものは、各園の特色として位置づけるとともに、達成率が低かったねらいには、食育プログラム、及び食育実践上、改善すべき課題として、自覚的に取り組む必要があろう。

なお、児童票の結果を園別に見ると、モデル園の間にも達成率に差は見られた。しかし、実践の報告を見聞きする限り、４つのモデル園に数字ほどの差は感じない。したがって、園別の食育のねらいの達成度の差は、子どもの評価に対する判断基準が、園あるいは保育者によって異なっていたためと理解するべきものである。

このことは、今回導入した児童票が、保育者の主観的な判断によって記入されていたことを物語る。このことだけを見ると、児童票の信頼性には疑問も生じよう。しかし、食育に限らず、保育においては、主観的な判断は否定されるべきものではない。なぜなら、保育は子どもと保育者が生活を共にするところに特徴があるからである。保育者は、子どもと一緒に生活しながら、その生活、または、設定する具体的な経験を通して、子どもの成長・発達は促そうとする。保育の一環として展開される乳幼児期の食育も同

じである。したがって、食育における子どもの評価も、子どもと生活を共にする保育者だからこそ読み取れる、あるいは感じ取れるものであり、それを無視した把握は困難である。

今後は、こうした主観性を大切にしながら、そのバラつきを無くすため、園あるいは保育者の視点を間主観性のレベルまで引き上げることが課題となる。そのためには、園あるいは保育者の間で計画－実践－評価の全ての保育活動について、常に共通理解を図ることが必要となる。児童票の指標も、こうした努力を踏まえて改善される必要がある。具体的には、実践を詳細に記録し、その事実から食育プログラムのねらいや内容を確認し合ったり、子どもの成長を読み取ることが求められる。今後に期待したい。

E．研究発表

1. 学会発表

師岡章・酒井治子・廣瀬志保・金田利子：保育所における食育のあり方を考える，第17回日本乳幼児教育学会(東京学芸大学)，2007

師岡章・酒井治子：保育所における食育プログラムの開発と評価－第1報　モデル園での食育プログラムの内容構成の特徴と課題，第54回日本栄養改善学会学術総会（長崎新聞文化ホール），2007

清水祥子・廣瀬志保・師岡章・酒井治子：保育所における食育プログラムの開発と評価－第2報　そのプロセスと雑誌連載やホームページによる効果，第54回日本栄養改善学会学術総会（長崎新聞文化ホール），2007

廣瀬志保・師岡章・酒井治子：保育所における食育プログラムの開発と評価－第3報　保護者の食意識・食態度と子どもの食事講堂の変化，第54回日本栄養改善学会学術総会（長崎新聞文化ホール），2007

酒井治子・師岡章・堤ちはる・清野富久江：保育所における食育の計画づくりに関する全国的な動向，第54回日本栄養改善学会学術総会（長崎新聞文化ホール），2007

酒井治子・師岡章・針谷順子：自由集会Ⅳ　乳幼児期の食育　栄養教諭・栄養士の役割を考える～保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂の中で～，第54回日本栄養改善学会学術総会（長崎新聞文化ホール），2007

2. 雑誌寄稿

師岡章：新学期こそ見直したい　食事マナー・しつけ　指導の心がけ，少年写真新聞　たのしくたべようニュース，271（少年写真新聞社），2007

師岡章：レッツ食育，マザーブック　あそぼ，44-1～12（フレーベル館），2007-2008

師岡章：2歳児の食育,キンダーブックじゅにあ,4-1～12(フレーベル館)，2007-2008

師岡章：3歳児の食育,キンダーブック1,21-1～12(フレーベル館)，2007-2008

師岡章：4歳児の食育,キンダーブック2,44-1～12(フレーベル館)，2007-2008

師岡章：5歳児の食育,キンダーブック3,62-1～12(フレーベル館)，2007-2008

師岡章：幼児の食育の考え方・組み立て方，食生活，102-1（全国地区衛生組織連合会）,2008

平成１９年度　厚生労働科学研究費補助金　子ども家庭総合研究事業

乳幼児の発育・発達段階に応じた食育プログラムの開発と評価に関する研究

平成２０年　３月　発行

主任研究者　酒井 治子

東京家政学院大学
〒194-0292　東京都町田市相原町 2600
Tel/Fax　(042)782-3404（直通）
E-mail：hsakai@kasei-gakuin.ac.jp